

# 令和7年度第2回静岡県立富士高等学校 学校運営協議会議事録

記録者 教頭（全）

日 時	令和7年12月19日（金） 午前9時30分から11時30分まで
場 所	本校応接室
出席者	校長、副校長、教頭（全）、教頭（定）、事務長 学校運営協議会委員（川内十郎氏、黒田真史氏、船山恵子氏、清聰美氏）
配付資料	座席表、資料冊子（次第、出席者一覧、学校運営協議会資料（全・定）、いじめ防止基本方針（改訂版））、協議資料、その他（富士高新聞）

議事内容
校長挨拶 (校長) 生徒は様々なことにチャレンジし、日々成長している。本日は「心見考」の発表があり、学校を近くで見ていただく機会である。後半の協議・意見交換では、学校の在り方について意見をいただき、一緒に進めていきたい。
「心見考デー」(1、2年生「総合的な探究の時間」成果発表会) 参観
学校近況報告 (副校長) 資料を参照いただきたい。
協議・意見交換 (魅力的な学校になるために必要な手立てについて、4つの項目を中心に意見交換を行った。(1 授業、2 総合的な探究の時間（心見考）、3 学校行事や生徒会活動、部活動、4 地域連携)) <b>1 授業の在り方について</b> (委員A) 存在感を高めるために、単なる進学校というだけでは駄目。求められる力が変わってきている。生徒は資質が高いが、真面目・おとなしい。受験だけではなく、たくましさを含めた人間力を身に付けることが必要。 (委員B) ノーベル賞の受賞者には地方の公立高校出身者が多い。受験を目指した教育を行わなければならないが、人間力を育てることが大切。伝統や受験以外の人とのつながりから育まれるもの。独自性をつくり、保つことが選ばれことになる。 (委員A) 公立高校では、人と人とのつながりや困った人がいた場合どう動くのかなど、知識だけではなく、知恵が集積されている。それは、地域との接点の中で育まれるのではないか。普通科は特色を持ちにくく、伝統校は変えにくさがあるのではないか。 (委員C) 富士地域（公立高校）のグランドデザインでは、富士市5校が3校になると示されているが、本校が選ばれるのかどうかの瀬戸際なのではないか。受験の形もAOが広がるなど変わってきており。自分の意見や考えを伝えられることも必要。受験+社会で対応できる人間力が求められる。両輪のバランスを取り、3年間で進路を含め、どういう生徒を育てたいかを明確にし、発信することが求められる。 (委員D) 独自性やオリジナリティの発想は、人と人とのつながりや前向きな発想から出てくるもので、楽しそう、やってみようと思うことが大切。学校に行くのが楽しい、やってみようかと思える生徒が出てくると良い。また、生活習慣や少なくなる子どもに対して地域の協力も必要。 <b>2 総合的な探究の時間（心身考）の在り方について</b> (委員A) グランドデザインやスクール・ポリシーの出し方、発信力が大切。生徒が生き生きしている、楽しいと感じている、活気があることが、地域にとっての存在感となる。人間力、ブレイクスルーできる力、たくましさの育成は心身考が柱になる。探究活動は人間力や主体性を育てる。 (委員B) AIの発達により、情報整理などは簡単にできる。社会に出てから選ばれ続ける、必要とさ

れる人になるには、人の個性が必要となる。こだわりや尖った部分で、当たり前ではない部分を出せる力。個性、自分の中にあるものを育てるべきである。理数科は自分が着眼したことを探しているが、1年のCMでは、モチベーションを保つのは良いが、AIで簡単にできてしまい、内容は浅いのではないか。

(委員C) 心身考について、理数科は深い学びになっている。普通科はつまらないという意見もある。教科よりも時間がかかり、生徒への助言の方向性や成果について教員の技量が問われるので、難しいと感じる。

(委員D) 1・2年生で世の中に職業も含め、いろいろなものがある、自分に合うものがあるというヒントを心身考から得られると良い。将来リーダーになる生徒に対して、必要なことである。

### 3 学校行事や生徒会活動、部活動の在り方について

(委員A) 自分の子どもは、高校の部活でその後の人生が決まった。

(委員B) 生徒の学校生活の目的は?

(副校長) 生徒は能力が高く、勉強と部活動の両方頑張りたいと入学する生徒が多い。来年度から部活動は任意加入に変わるが、多くの生徒は加入すると思われる。バランスをとるのが難しく、中には部活を辞めたりする生徒もいる。部活動の数が多く、選択肢が多いので本校を選んでいる生徒も多い。

(委員B) 生徒がいろいろなところで頑張りたい気持ちがあれば、重要な活動であり、充実させる必要がある。自分達で考えて成長する場となるので、大切にすべきである。

(委員A) 学習塾ではできない、学校の機能としての集団で同世代と泣いたり笑ったりする体験となる、部活動の数が多く、環境として恵まれている。

(委員C) 勉強以外の活動はみんなで学ぶもので、強みになる。一方で、昔からのものを昔通りにやるのは無理がある。止めるべきものもあり、取捨選択して、変わらなければならない。部活動においても、今と同じようには維持できないはず。部活動でなくても、生徒会活動や学校行事等でできることがあるはずである。

(委員D) 部活動も大事である。百人一首部や新聞部等、強みのある部活動がある。子どもたちが選べる部活があることが強みになる。部活動の中で他者との関係、人間力を構築できる。

### 4 地域連携について

(委員A) 地域と学校はWin-Winの関係で、地域に活力をもたらすことができる。積極的に地域の人材活用し、生徒も外に出て行くべきである。

(委員B) 取材して地域を学んだり、人とのつながりから学んだりすることができる。例えば、中学校の部活と連携し、高校生が中学生を指導して役に立つことができる。地域を活性化し豊かになる。ただし、安全面やトラブル等の課題はあるが、可能な限り連携していくべきである。

(委員C) 野球部は野球教室等の地域貢献をしている。市役所や大学等の連携では、求められるまでは、学校の負担が大きい。学校のカリキュラムの中でプラスになるところで連携すると良い。

(委員D) 学校外の活動は日曜日が多く、難しさもある。半日の清掃活動もあるので、地域のイベントで興味のあるものに積極的に参加してみてはどうか。探究活動のリサーチにおいても、調べるだけでなく、現場へ行き地域との接点をつくりしっかり聞くことも必要である。

(委員A) 学校も地域を利用し、ダイナミックな学びをすべき。また、地域にわかってもらう発信力も必要である。

(副校長) いただいた意見は、学校経営計画や具体的な教育活動に反映させる。

(校長) 富士高エイトの中に協調性・協働性・傾聴力がある。地域と関わる斜めのつながりも大切にしたい。アイデアをいただきながら、一緒に進めていきたい。

### 諸連絡

(副校長) 次回は、2月12日(木)午前9時30分から11時30分で開催する。